

## 令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立西が岡小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和6年4月18日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問調査)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問調査)

#### 4 本校の実施状況

第4学年	国語	47人	算数	47人	理科	47人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	62人	算数	62人	理科	61人
------	----	-----	----	-----	----	-----

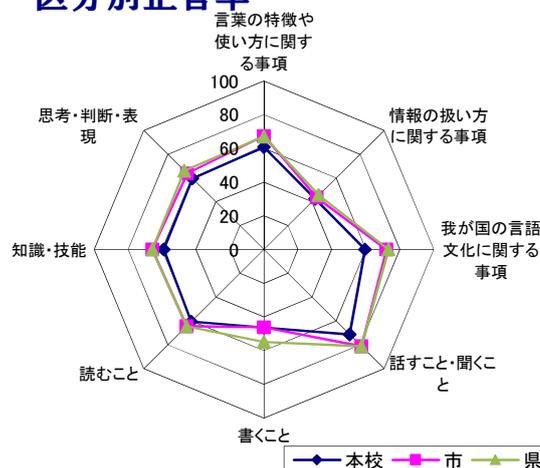
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立西が岡小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	60.8	67.4	67.1
	情報の扱いに関する事項	42.6	43.8	45.7
	我が国の言語文化に関する事項	59.6	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	71.3	81.2	81.2
	書くこと	46.3	46.2	54.9
	読むこと	60.4	64.3	64.5
観点	知識・技能	59.0	65.7	65.7
	思考・判断・表現	59.6	64.0	66.3



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

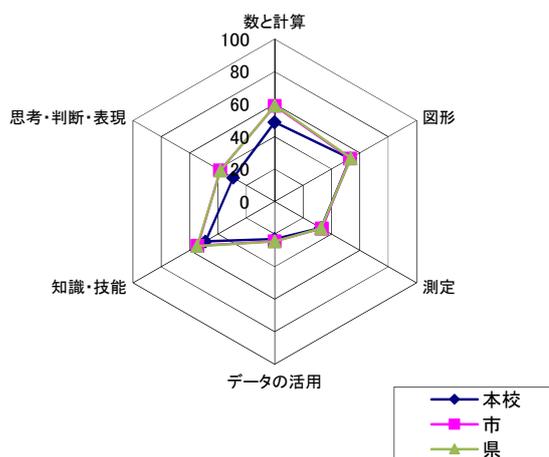
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <p>○「遊び」という漢字を正しく読むこと平均正答率が市の正答率にほぼ同じで、比較できていた。文章を書く際、習った漢字は使うよう指導している。生活に関係する言葉は使う頻度が高く、定着しているものと考えられる。</p> <p>●全体的には、漢字を正しく読んだり、書いたりすること平均正答率が市の平均より低く、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、反復練習やデジタル教科書の活用、タブレット学習などを継続するとともに、既習の漢字を使うよう支援し、習熟を図る。</li> <li>・漢字の学習については、漢字の意味や成り立ちなどを調べさせたり、熟語集めや短文作りを取り入れたり、他教科と関連付けて指導したりするなど、自発的な取り組みを促すよう働きかける。</li> </ul>
情報の扱いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>●文中で使われている言葉の最適な意味を、国語辞典から探すことに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元において国語辞典を用いた調べ学習を奨励するとともに、文脈に沿った最適な意味を国語辞典から選べるよう、クラス全体で答え合わせをするような機会を設ける。</li> <li>・単語を別の言葉で言い換えたり説明したりするなど、言葉のイメージを広げるような働きかけを行う。</li> </ul>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●漢字のへんやつくりを正しく組み合わせることで既習の漢字を作ることに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字の指導をする際には、部首やへんやつくりについて意識させる指導を行う。</li> <li>・単元の最後の「漢字の世界を広げよう」を積極的に活用し、同じ部首の漢字を見つける活動を行う。</li> <li>・へんやつくりを組み合わせることで漢字を作ったり、同じ部首をもつ漢字を集めたり、部首の意味を調べたりするなどの学習に取り入れる。</li> </ul>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○話し手が伝えたいこと中心を捉えることが、比較よくできていた。市の平均と比べると低いものの8割は正答していた。互いの考えを伝える話し合い活動を取り入れてきた成果と考えられる。</p> <p>●特に話し合いの様子を聞いて、全体の流れから司会者の話し方の工夫を捉えることに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、グループや学級全体で話し合い活動を積極的に取り入れ、実践の場を設ける。</li> <li>・話し手が伝えたいこと中心を捉えることができるよう、メモを取ったり質問したりするなど話の聞き方を指導する。</li> <li>・参加者に発言を促したり、共通点や相違点を確認したり、話し合った内容をまとめたりするなど司会者の役割を確認し、実践できるよう支援する。</li> <li>・「話すこと・聞くこと」の評価問題実施後の見直しの際に、話し手が伝えたいこと中心や司会者の話し方の工夫、話し手の発言を受けて司会者がどうつないでいくのかなどにポイントを絞り、確認を行う。</li> </ul>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均よりやや高い。</p> <p>○指定された長さで文章を書いたり、考えを明確にして文章を書いたりすることの正答率が市の平均より高い。授業のふり返りや単元のまとめなど、自分の考えをまとめて文章で表す機会を取り入れてきた成果と考えられる。</p> <p>●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、いろいろな場面で条件に合わせて自分の考えをまとめる場を設け、表現力を育てていく。</li> <li>・文章を書くことが苦手な児童には、文章の型を提示し、それに沿って文章を書くよう支援する。</li> <li>・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章を書く題材を取り入れる。</li> <li>・ICTを活用し、学習活動の場を工夫する。</li> </ul>

<p>読むこと</p>	<p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。  ○文章における叙述を基に「これら」という指示語の内容を捉えることのできる正答率が市の平均より高い。授業において、指示語が指す内容について確認する機会を取り入れてきた成果と考えられる。  ●文章を読んだ2人が、読んで感じたことやわかったことでどんなことを共有できたかを問う問題の正答率が市の平均より低い。</p>	<p>・今後も、読書活動を推進し、読んで理解する力に繋げるようにする。  ・物語などの「読むこと」に関する単元の学習において、感じたことやわかったことを共有したり、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付かせたりして、文章の内容を読み深める力を育てていく。学級のみならず学年で話し合う場を設定し、見方考え方を広げるようにする。</p>
-------------	--	--

# 宇都宮市立西が岡小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	48.9	58.9	59.2
	図形	53.2	53.0	53.7
	測定	32.5	33.1	32.6
	データの活用	22.9	24.4	24.6
観点	知識・技能	48.9	54.3	54.7
	思考・判断・表現	29.3	38.5	38.3



## ★指導の工夫と改善

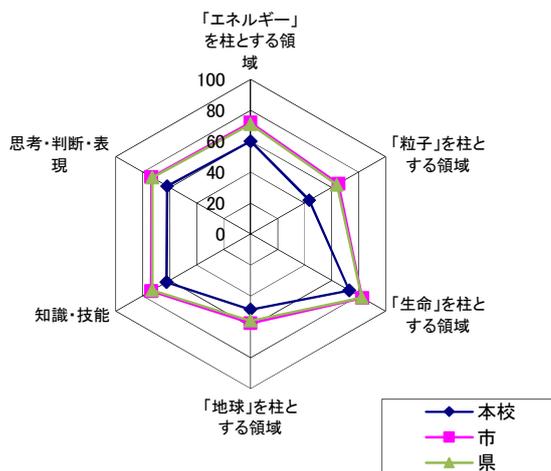
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均と比べて低い。</p> <p>○乗法における交換法則について、計算の仕方をよく理解し、説明することができている。図などを用いて交換法則が成り立つことを確かめたり、この理由についても言葉で説明したりしてきたことの成果が表れている。</p> <p>●数量の関係について、□を使って正しく表すことに課題が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数量の計算に関する練習問題で復習するときなど、交換法則、結合法則、分配法則を用いて立式したり計算したりすることで、繰り返し法則を確認するようにする。</li> <li>・問題場面の数量の関係に着目して式を読み取る練習を行ったり、場面の違う問題をいくつも学習に取り入れて、どんな式になるか考え伝え合ったりすることで、数量の関係について理解を深めるようにする。</li> </ul>
図形	<p>平均正答率は、市の平均と比べてやや高い。</p> <p>○二等辺三角形の性質がよく理解できている。これは、二等辺三角形の意味や性質を理解する際には、定規やコンパス、紙を折るなどの活動を豊かに行った成果であると考えられる。</p> <p>●半径と直径について理解し、球の性質を利用し長さを求めることに課題がみられた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の学習の時間に、図形に関する既習事項を取り入れていく。また、分からない問題については、実際に紙を折ったり切ったりして確かめるようにする。</li> <li>・児童の身近にあるボールを段ボールに敷き詰め、円の半径と直径の関係を捉えながら長さを求めるなど、具体的な活動を取り入れて復習することで定着を図るようにする。</li> </ul>
測定	<p>平均正答率は、市の平均と比べてほぼ同じであった。</p> <p>○はかりの目盛りを読み取り、重さを答えることができている。これは、実際に秤を使って計測する学習を繰り返し行ってきた成果であると考えられる。</p> <p>●地図から道のりを読み取り、2つの道のりの差を求める問題に課題が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、実際に調べたり、体験したりするなど、実感的にとらえられるよう体験活動を取り入れるようにする。</li> <li>・mをkmに変換したり、またkmをmに変換したりする活動を繰り返し指導する。また、答えの求め方については、友達同士で伝え合う活動を取り入れることで、筋道を立てて解決していく考え方が身に付けられるようにする。</li> </ul>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均と比べてやや低い。</p> <p>○複数の棒グラフを組み合わせた表し方が異なる棒グラフから問題の趣旨に合う棒グラフを選び、数量の大小を読み取る問題の正答率が、市の平均より高い。様々な棒グラフからデータを読み取る練習を繰り返し行った成果であると考えられる。</p> <p>●目盛りの付け方が異なる複数のグラフについて、数の比べ方を説明することに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、一つの観点で作成した表を組み合わせた表や複数の棒グラフを組み合わせたグラフなどを関連付けて考える活動を取り入れ、2つのグラフの特徴や関係性などを読み取る力を育てたい。</li> <li>・棒グラフを取り上げる際には、最小目盛りの大きさに着目させ、正しく読み取る力を育てる。</li> <li>・グラフを書く活動の際には、グラフ用紙や割付などの大きさに応じて目盛りの付け方を工夫し、目的にあった目盛りを用いることができるよう支援する。</li> </ul>

# 宇都宮市立西が岡小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	60.0	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	43.6	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	73.1	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	48.9	57.7	56.2
観点	知識・技能	62.4	73.8	72.8
	思考・判断・表現	61.9	73.7	72.8



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○音の性質について、物から音が出るときは物が震えていることを理解している。打楽器や糸電話等、児童にとって身近な物を使って実験を行い、一人一人に体感させた成果であると考えられる。</p> <p>○磁石の性質について、磁石に引きつけられる物を理解している。様々な物に磁石を近づけ、実験の結果を表に分類・整理したことの成果であると考えられる。</p> <p>●風の力の働きについて説明する問いの無回答者の割合が約2割であった。適切な言葉を用いて解答することに課題が見られる。</p>	<p>・今後も見通しをもって実験・観察等の体験活動に取り組み、課題解決をする学習を継続していく。</p> <p>・事象を確認するために、多くの身近なものを使って実験をし、共通性を見出すことで本質を理解することができているため、この科学的な思考を継続して指導していく。</p> <p>・理科で扱う用語やそれに伴う文章表現については、繰り返し扱うとともに指導の際に明確に示すようにする。また、文章表現については、例えば風の強さであれば、「強い」「弱い」、はたらきの大きさであれば、「大きい」「小さい」といった対になる表現を示すとともに、児童がその用語や文章表現を使って記録・考察できるよう指導を工夫する。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○物と重さについて、物は形が変わっても重さが変わらないことを理解している。物を分けたり丸めたり形を変えながら重さを量る実験を一人一人が行い、体感させた成果であると考えられる。</p> <p>●物と重さについて、問題文にある「体積」という言葉の意味が理解できずに解答することができなかつたと考えられる。知識の定着に課題が見られる。</p>	<p>・今後も見通しをもって実験・観察等の体験活動に取り組み、課題解決をする学習を継続していく。</p> <p>・体感的には理解しているが、科学的にとらえられるよう物の形が変わることは体積が変化するという、物に他から物が加わったり、減らしたりすることは重さが変化することということ2つの事象についてそれぞれ確認し理解できるようにさせる。</p> <p>・理科で扱う用語や意味について確認するとともに、適切に使って考察できるよう指導を工夫する。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○身の周りの生物について、植物の体は、根、茎、葉からできていることを理解している。実際に植物を育てながら、観察カードに記録し、繰り返し体のつくりについて確認した成果であると考えられる。</p> <p>●身の周りの生物について、虫眼鏡の正しい使い方を選択することができない児童が多い。実験に関する技能に課題が見られる。</p>	<p>・今後も見通しをもって実験・観察等の体験活動に取り組み、課題解決をする学習を継続していく。</p> <p>・植物の成長の仕方を理解するために、観察カードを使って継続的に変化をとらえて記録し、成長を比較する学習の仕方を継続していく。</p> <p>・虫眼鏡については、ある程度肉眼で見えてしまうため、同じ物でもより細部を見てその様子を知るよう指導を工夫する。また、対象物が手に持てる物と持てないもの両方を観察させ、意識的に使い方が体感できるよう工夫する。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○太陽と地面の様子について、影が太陽の反対側にあることを理解している。実際に影踏み遊びを体験させた成果であると考えられる。</p> <p>●太陽と地面の様子について、方位磁針の正しい読み方を選択することができない児童が多い。実験に関する技能に課題が見られる。</p>	<p>・今後も見通しをもって実験・観察等の体験活動に取り組み、課題解決をする学習を継続していく。</p> <p>・太陽と影の関係のように、一方の変化に伴ってもう一方が規則的に変化する事象については、それぞれの変化前の関係と変化後の関係をとらえるとともに、変化中の様子もとらえられるよう科学の見方・考え方を継続して指導していく。</p> <p>・方位磁針と使い方については、社会科の学習でも扱っているため、再度理科でも使い方を確認する。さらに、3年の磁石の学習でもその仕組みを学習するので、正確な知識を定着させるよう指導していく。</p>

## 宇都宮市立西が岡小学校 第4学年 児童質問調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている。」「学校の宿題の量はちょうどいいと思う。」の設問で肯定的な回答をした児童の割合は9割を超え、県の平均よりやや高い状況であった。宿題の量や内容が児童の実態に適しており、学習習慣として定着していると考えられる。今後も、児童の実態に合わせて宿題を工夫し、家庭学習の習慣を継続していきたい。

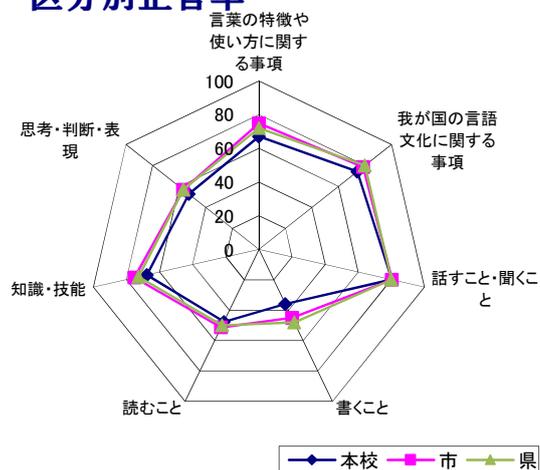
○「先生は、学習のことについてほめてくれる。」の設問で肯定的な回答をした児童の割合は9割を超え、県の平均より高かった。自己肯定感を高めるために教師が意識的に声掛けを行ってきた成果であると考えられる。今後も、児童の自己肯定感を高めていけるような声掛けを継続したい。

●「家で、学校の授業の復習をしている。」「家で、学校の授業の予習をしている。」「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている。」等の設問で肯定的な回答をした児童の割合は県の平均より低く、宿題以外の家庭での学習習慣に課題が見られる。家庭学習の内容を示したり、学習意欲を高めるための声掛けをしたりするなど、家庭と連携しながら学習習慣の見直しを図っていきたい。

# 宇都宮市立西が岡小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	67.1	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	74.2	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	80.2	80.4	80.0
	書くこと	35.9	45.1	48.0
	読むこと	47.6	51.3	50.0
観点	知識・技能	67.7	75.2	72.8
	思考・判断・表現	52.8	57.0	57.0



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

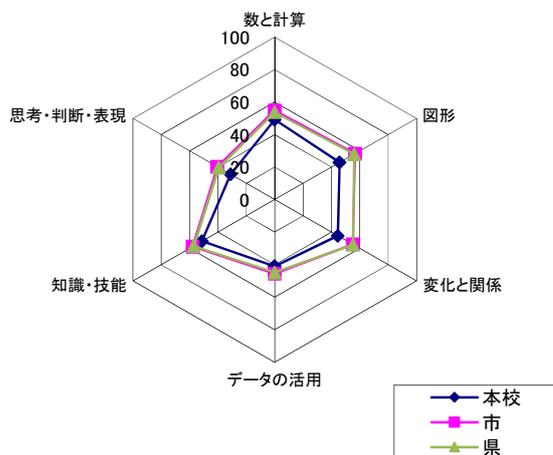
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <p>○修飾と被修飾の関係を捉えることがよくできている。語句相互の関係に気を付けながら文章を読み深めるよう、授業の中で支援してきた成果である。</p> <p>●漢字を正しく読んだり書いたりすることには課題が見られる。</p>	<p>・今後も、主語と述語、修飾と被修飾の関係に気を付け、文がどのように組み立てられているかを考えさせることで、文章を読み深めるよう指導していく。</p> <p>・プリントやドリルなどの練習問題において、熟語の漢字の組み合わせの種類で同じものを選ばせるような問題に積極的に取り組ませる。</p> <p>・漢字練習は家庭学習で取り組ませるなど繰り返し行い、定着させる必要がある。熟語や短文づくりを取り入れながら漢字の習熟を図る。</p>
情報の扱いに関する事項	<p>取扱い問題なし</p>	
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <p>●慣用句の意味を理解して自分の表現に用いることに課題がある。</p>	<p>・掲示資料や自主学習などで、慣用句や故事成語、ことわざなどを取り上げ、関心を高めるとともに、日常生活で用いるように働きかけていく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じ。</p> <p>○司会者が参加者の発言を基に、考えをまとめて短い言葉で表す問題の正答率が市の平均よりやや高い。様々な学習や活動において話し合い活動を積極的に取り入れている成果であると考えられる。</p> <p>●話し合いの目的や進め方を確認し、意見の共通点や相違点に着目しながら自分の考えをまとめることに課題が見られる。</p>	<p>・今後も、様々な学習や活動において話し合い活動を積極的に取り入れ、いろいろな役割を果たせるような場を設ける。</p> <p>・意見の共通点や相違点に着目しながら自分の考えをまとめられるよう、メモを取りながら聞いたり司会者の話し方の工夫を捉えたりすることができるように、授業の中で指導していく。</p> <p>・「話すこと・聞くこと」の評価問題実施後の見直しの際に、話し手が伝えたいことの内容や司会者の話し方の工夫、話し手の話を受けて司会者がどうまとめて他の人につなげていくかなどを気付かせるようにする。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○アンケート調査の結果を表す図を読み取り、自分の考えを文章で表すことが比較的できている。社会科や総合的な学習の時間などでも、情報を活用して考えをまとめる活動を取り入れている成果であると考えられる。</p> <p>●指定された長さで文章を書いたり、段落ごとに内容の中心を明確にしなが文章を書いたりすることに課題がある。</p>	<p>・今後も、いろいろな場面で条件に合わせて自分の考えをまとめる場を設け、表現力を育てていく。</p> <p>・書く内容の中心が明確になっているか、内容のまとめり毎に段落ができているかなど、段落相互の関係性に注意して文章を推敲できるよう支援していく。</p>

<p>読むこと</p>	<p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。  ○文章を読んで、登場人物の性格や気持ちの変化について想像することができる。描写に着目しながら感じたことや考えたことなどを伝え合い、読みを深める活動を取り入れてきた成果であると考えられる。  ●文章を読んでまとめた意見や感想を共有することに課題が見られる。</p>	<p>・今後も、文章を読んで感じたことや考えたことをみんなで共有し、読解力を高める活動に取り組ませていきたい。  ・登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されている描写にも着目し、想像を豊かにしながら読むことができるよう支援していく。  ・文章を読んで感想や考えを持つことに加え、それらをまとめる活動に力を入れていく。</p>
-------------	--	--

# 宇都宮市立西が岡小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	49.2	54.9	53.7
	図形	45.7	56.6	56.1
	変化と関係	44.4	55.1	55.2
	データの活用	41.0	45.5	44.8
観点	知識・技能	51.3	57.8	57.2
	思考・判断・表現	31.1	40.6	39.5



## ★指導の工夫と改善

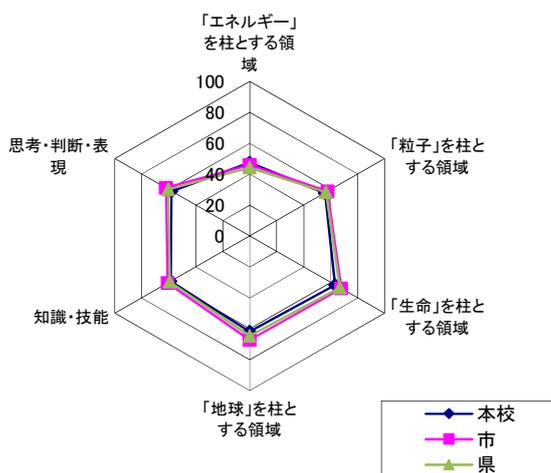
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○小数÷整数の問題が比較的できている。筆算の練習問題に取り組む過程の中で、小数点の配置の意味について理解しながら練習問題に正確に取り組んだ成果であると考えられる。</p> <p>●億の単位や大きな数の表し方や、構成の理解に課題が見られる。</p>	<p>・千の位より上の位は右から4桁ごとに万、億、兆の単位を用いていることで、一、十、百、千の繰り返しで位を表す仕組みであることをおさえ、繰り返し正確に練習問題に取り組ませていく。</p> <p>・応用問題を解く場面においては、できるだけ児童が答えを見積ったり、自らの言葉で考え方をまとめたりする経験を大切にしながら学習を進めていく。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○三角定規の角度の理解を問う問題が比較的できている。2種類の三角定規の性質について、具体物を活用しながら筋道を立てて考えた取組の成果であると考えられる。</p> <p>●平行四辺形の作図について、課題が見られる。</p>	<p>・角の大きさを測ったり、図形を作図したりする学習では、定規や分度器、コンパスなどの道具を使って作図したり経験を十分に積ませる。</p> <p>・平行四辺形の作図について、頂点の位置を決めるための正しい手順について確認するとともに、その根拠として平行四辺形のどのような特徴を用いたのか説明させる活動に繰り返し取り組ませることで、定着を図っていく。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○表を横に見て、使用した棒の本数がいくつ増えているかについて考える問題が比較的できている。生活場面に関連する学習問題について、協働的な学習において見通しを立て、表を活用しながら取り組んだ成果であると考えられる。</p> <p>●伴って変わる2つの数量の関係の立式について課題が見られる。</p>	<p>・説明を聞いて表にあてはめて考えることや、「横にみる」「たてに見る」などの説明にも慣れるよう表の様々な見方を意識した指導を行う。</p> <p>・表を見て考えたり話し合ったりする活動を通して、理解する力や文章を読んで整理しながら考える力を育てていく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○折れ線グラフを読み取り、気温差が最も大きい月について考える問題が比較的できている。1目盛りの量を捉えながら、最も大きく変化している箇所について、学級全体で協働的に話し合いながら取り組んだ成果であると考えられる。</p> <p>●二次元の表の意味を理解し、傾向を読み取ることについて課題が見られる。</p>	<p>・表やグラフを使って考える問題では、児童が自分で表やグラフを使って考える経験が大切であるため、一人一人がどの程度理解できているか、評価をもとに個別に指導する。</p> <p>・折れ線グラフや棒グラフから、どんなことが読み取れるのかを、話し合いながら一緒に丁寧に読み取っていくような活動を積み重ねていく。</p>

# 宇都宮市立西が岡小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	47.5	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	55.7	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	63.3	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	61.8	67.2	64.6
観点	知識・技能	58.6	60.8	59.2
	思考・判断・表現	57.9	62.1	60.4



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均と同じである。</p> <p>○簡易検流計の針のふれる向きと大きさが、電流の向きと大きさを表すことを理解できている。一人一人が回路を組み立てて実験し、結果から考える課程を大切に指導を行った成果が表れている。</p> <p>●乾電池のつなぎ方とその名称の理解に課題がある。</p>	<p>・今後も見通しをもって実験・観察等の体験活動に取り組み、課題解決をする学習を継続していく。</p> <p>・実験・観察等で電流の大きさを数値化し比較することで理科の見方・考え方を養っていく。</p> <p>・乾電池やモーター等の器具を複数使う場合は、直列つなぎと並列つなぎがあることを実際に回路を分類することで理解させる。また、つなぎ方によって電流の大きさや向きが変わることをつなぎ方が分類できることを理解する。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均と同じである。</p> <p>○あたためたときの金属と空気の体積の変化を理解できている。実験結果を予想することや、予想と比べること、結果をまとめることを繰り返してきた成果が表れている。</p> <p>●ジャムの瓶をあたためるとふたが開く理由を答える問題の正答率が低く、生活と結びつけて考えることに課題がある。</p>	<p>・今後も見通しをもって実験・観察等の体験活動に取り組み、課題解決をする学習を継続していく。</p> <p>・目に見えないものの温度変化を、体積変化で比較することによって視覚化していることが分かるようにするため、実験する前に仮説を立てる指導を継続していく。</p> <p>・学習で扱っていない課題に対して、科学の見方をはたらかせて現象をとらえる上での要素が発想できるよう、実験の際には物質の変化とエネルギーとの関係を類推させるなど、指導を工夫する。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <p>○腕の曲げ伸ばしによる筋肉の変化を理解できている。自分の腕を触ったり、模型や映像を活用したりして捉えさせた成果が表れている。</p> <p>●植物の成長の様子を理解し、それらをグラフに表すことに課題がある。</p>	<p>・今後も見通しをもって実験・観察等の体験活動に取り組み、課題解決をする学習を継続していく。</p> <p>・体内や時間的変化等実験・観察が困難な課題については、有効な模型や映像を準備して実際の様子に近い状態をつくり思考させるようにする。</p> <p>・植物の継続観察では、発芽・開花・結実等の大きな変化だけでなく、葉の枚数の変化や色の変化、茎の伸び等の成長も比較して成長をとらえられるよう指導を工夫する。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均とやや同じである。</p> <p>○水蒸気が冷やされることで水になることを理解できている。観察や実験から自分の言葉でまとめることを繰り返してきた成果が表れている。</p> <p>●実験の結果から水が流れる向きを読み取ることに課題がある。</p>	<p>・今後も見通しをもって実験・観察等の体験活動に取り組み、課題解決をする学習を継続していく。</p> <p>・水の三態変化を粒子的にとらえたり、環境的にとらえたりする思考ができているため、日常の事象を多面的にとらえて表現する指導も継続していく。</p> <p>・実験は仮説を実証するために行うため、必ず追究するための手がかりがあり、それを見つけて何を意味しているのかを明らかにする思考ができるようにする。</p>

## 宇都宮市立西が岡小学校 第5学年 児童質問調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある。」の設問に対して肯定的な回答をした児童の割合は県の平均より高く、学習活動に前向きに取り組んでいる児童が多いことが分かる。今後も、児童の興味関心を引き出せるよう、ICT機器を取り入れる等、教材を工夫したい。

○「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」で肯定的な回答をした児童の割合は県の平均よりかなり高く、疑問に感じたことを解決したいという意欲をもつ児童が多いことが分かる。今後も、疑問等を感じたときに、調べ学習が行いやすい環境(タブレットの利用, 辞書, 図書室の本の活用)を整えていきたい。

●「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金)、一日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」では、5年生で推奨している学習時間の1時間に満たない児童の割合が県平均より高く、課題が見られる。また、学校が休みの日の勉強時間の質問についても、「全くしない」と答えた児童の割合は、県平均より高い。これらのことから、家庭での学習習慣が身に付いていない児童が多いことが分かる。

また「ふだん(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、テレビや動画などを見ていますか」では、最長の4時間以上と回答した児童の割合が県平均より高い結果であった。同様にゲーム時間の質問においても、最長の4時間以上と回答した児童の割合は県平均より高かった。これらのことから家庭での時間の使い方に課題が見られる。

今後は、宿題の内容を充実させたり家庭学習の内容を示したりすることで、家庭における学習習慣の定着を図りたい。また、テレビや動画の視聴時間やゲームの時間を減らして家庭学習の時間を増やしていけるよう時間の使い方を見直したり、学習や遊びに関する約束事を決めたりするなど、児童および保護者への啓発を行いたい。

## 宇都宮市立西が岡小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習意欲を高める指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味を高める導入や課題提示の工夫</li> <li>・体験的学習や課題解決的な学習の積極的導入</li> <li>・自力で課題解決にあたる時間の確保</li> <li>・ペア学習, グループ活動など最適な学び合いの場を設定し, 対話による課題解決の場の工夫</li> <li>・ICT機器や1人1台端末, 図書等の効果的な活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4・5年生ともに, 「授業では, クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」, 「友達と話し合うとき, 友達の話や意見を最後まで聞くことができている」と肯定的に回答している児童の割合が高い。対話による課題解決の場が設けられ, 友達の話や意見に関心をもち話し合い活動が行われていることがうかがえる。</li> <li>・5年生において, 「本やインターネットなどを利用して, 勉強に関するじょうほうを得ている」, 「疑問や不思議に思うことは, 分かるまで調べたい」, 「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」と肯定的に回答している児童の割合が高い。一人一台端末や図書等を効果的に活用しながら, 学習を進めている児童が多いことがうかがえる。</li> </ul>
分かる授業を目指した授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・対話的で深い学びの実現に向け, 「宇都宮モデル」と「西が岡スタイル(つかむ, 考える・つなぐ, まとめる, ふりかえる)」を取り入れた授業の実施</li> <li>・児童への言葉掛け, 学習方法, 教材, AI型学習ドリルなど, 個に応じた支援の工夫</li> <li>・課題提示, 教材提示, 発問の工夫(特別支援教育の視点を取り入れる。)</li> <li>・児童の発言・考えをつなぐ教師のコーディネート力の向上</li> <li>・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を明記し, 授業の流れや学びが見えるノート指導の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4・5年生ともに, 「授業の中で, 目標(めあて・ねらい)がしめされている」, 「授業を集中して受けている」と肯定的に回答している児童の割合が高い。課題解決型の授業に集中して取り組んでいる児童が多いことがうかがえる。</li> <li>・4・5年生ともに, 「先生は学習のことについてほめてくれる」と肯定的に回答している児童の割合が高い。個に応じた支援が工夫されていることがうかがえる。</li> </ul>

<p>基礎学力の定着と家庭学習の習慣化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科の基礎的な学習内容や話の聞き方、発言の仕方などの繰り返し指導</li> <li>・個人差に応じた適切な分量・内容の宿題、自主学習の仕方の支援による家庭学習の習慣化</li> <li>・学年・学級懇談会での保護者への家庭学習についての継続的な意識啓発活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4・5年生ともに、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい。」と回答している児童の割合が高い。また「友達の前で自分の考えや意見を発表するのは得意である。」と回答している児童の割合が低い。自分の考えをもち、まとめて表現することに課題があることがうかがえる。話型やキーワードを提示したり観点を提示したりするなど、考えをまとめて表現するための支援を行っていく。</li> <li>・4・5年生ともに、「学校の宿題の量はちょうどよいと思う。」「学校の宿題は、自分のためになっている。」の設問について、ほぼ全員が肯定的に回答している。個人差に応じた適切な分量・内容の宿題により、宿題が習慣化されていることがうかがえる。</li> <li>・「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかにも自分で考えた勉強をしている」と回答している児童の割合は、5年生は65%程度、4年生は50%程度であり、宿題以外の家庭での学習習慣に課題が見られる。家庭学習の内容を示したり、学習意欲を高めるための声掛けをしたりするなど、家庭と連携しながら学習習慣の見直しを図っていきたい。</li> </ul>
-------------------------	--	---